

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
バカになれる人 今の 10 倍給与を稼ぐための絶対条件

若い人たちが活躍できない日本社会を変化させるための出発点は、いったいどこにあるのでしょうか。確かなことは、若い人たちが自身で、活躍できる場所を与えられるのを待っているうちは、世の中はいつまで経っても何も変わらないということです。若い人たちが自ら変えていかなければなりません。先にも紹介したスタンフォード大学でスティーブ・ジョブズが行った演説で、これから社会へ出ていく若者たちへジョブズが最後に贈ったのは、「Stay hungry, Stay foolish.」という言葉でした。「ハングリーであれ、そしてバカであれ」というわけです。私なりに解釈していえば、ハングリーであれ—とは、今の状況に満足したりせず、人生を前向きにとらえるハングリー精神を持つことの大切さを指しています。そのうえ、利口になるな、バカになれ—ジョブズはアメリカ有数のスタンフォード大学の優秀な学生にそう

いっているのです。要するに、「無知無能であれ」という意味ではなく、考え方としてバカになれ、ということでしょう。私の経験からいうと、独立して会社を自分で興した人は、雇われて働くなど二度としません。なぜなら、自分で会社を動かすほうが、やりがいがあるからです。そのほうが面白いからです。一度それを経験した人は、どんな苦勞をしてもいいから経営者であろうとします。独立を目標としてください。「いずれ独立しよう」と志したときから、今の仕事の仕方が変わります。つまり、リーダーとしてのスキル、会計のスキル、評価のスキルなど、今勤めている会社から学ぶべきことが山のようにあることに気づくのです。リーダーとして優秀になるために何ができるか、より具体的に、より一生懸命に考えていかなければなりません。だから、育つのです。

身につけて役立つものとは、その会社の中だけで役立つものではなく、もっと普遍的なものです。本当に身につけるべきは普遍的な能力です。具体的にいうと、たとえば英語はその筆頭でしょう。さらに現実を客観的に見ていけば、今は一流と呼ばれる企業であっても、いつ立ちゆかなくなるかわからない時代になっています。いざ転職となったとき、技能として特筆できるものを持つ人がどれほどいるでしょう。たとえば、百貨店担当の営業マンなら、今後先細りが必死の百貨店と商売できること以外に、何かできることを持っているでしょうか。実際に、転職に際し採用試験では面接官からそう問われます。滅私奉公だけを懸命にやってきた人は、そこで「何か」を提示することは難しいのです。多くの人が、必要に迫られて初めて自分がいかに滅私奉公だけでやってきたかに気づきます。しかし、気づいたときにはどうしようもないという状態です。一方独立という目標を持てる人は、普遍的な能力を身につけることの重要性に気づくことができます。ですからぜひ独立を志してほしいのです。そして独立が叶ったら、本当の意味で自分の能力を試すことができます。たとえ実際に独立しなくても、そう努力しているうちに、今働いている会社から認められ、それなりに報酬と地位を得るようになるかもしれません。それで本人も幸せなら、会社にとっても幸せなことですし、仕事ができる社員として育ってくれたことに大いに会社は喜んでくれているはずで

す。世の中の基本には、競争がなければいけません。溜まった水はやがてよどみ腐るように、世の中も流れがなければよどみます。親の基盤を継いだ政治家や、二代目、三代目社長の多くを見れば明らかです。彼らが競争して勝ち残ったうえであらためてトップに立ったのならいいのです。しかし、そうでないところに、日本が抱えるよどみの原因があります。この世の中がいい意味で変わっていくためにも、「ハングリー」で「フーリッシュ」な若い人たちが育ってきることが必要だと思っています。

ジョブズは、スタンフォード大学の優秀な学生に何と言っていますか？

()

カッコ内を埋めてください

要するに、「()」という意味ではなく、考え方として()、ということでしょう。